

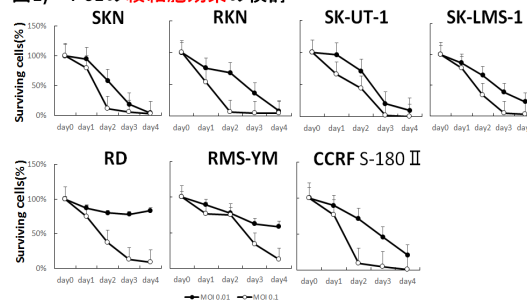
ID No.	1035
研究課題名	ヒト肉腫に対する増殖型遺伝子組換えウイルスを用いた新治療法の開発研究
研究代表者	海堀 昌樹(関西医科大学外科学講座・診療教授)
研究組織	
受入教員	藤堂 具紀(東京大学医科学研究所 先端がん治療分野・教授)
研究分担者	海堀 昌樹(関西医科大学・診療教授) 松島 英之(関西医科大学・病院助教) 八田 雅彦(関西医科大学・大学院生)

研究報告書

in vitro:ヒト肉腫培養細胞におけるT-01による細胞障害性の検討(図1)

ヒト横紋筋肉腫・平滑筋肉腫細胞株に対する *in vitro*での抗腫瘍効果の検討を行った。T-01感染群は非感染群(mock)に対してday4で有意差を持って増殖が抑えられ、T-01の濃度依存性の抗腫瘍効果が示された(student's T test $p < 0.05$)。[RMS-YM, RD:ヒト横紋筋腫, RKN, SK-LMS-1, SK-UT-1, SKN:ヒト平滑筋肉腫, CCRF S-180

図1) T-01の殺細胞効果の検討



II:マウス肉腫, 非感染群(mock)=100%としたウイルス濃度(MOI:0.01, 0.1)別生存細胞数の比(%)]

in vivo:ヌードマウス皮下腫瘍モデル(ヒト平滑筋肉腫細胞株:SK-LMS-1)におけるT-01による腫瘍抑制効果の検討

ヌードマウスヒト平滑筋肉腫モデルに対して濃度別投与(T-01 : 2.0×10^5 pfu, 2.0×10^6 pfu)、回数別投与(T-01 : 2.0×10^6 pfu 2回、4回、8回)を施行した。結果は濃度別投与、回数別投与でもT-01の有意な腫瘍抑制効果を得られた。また、濃度別実験では濃度依存性に回数別投与実験では回数依存性に腫瘍増殖抑制効果を認めた。